

くらしのすまいりんぐ

地球と人に優しい家づくり・くらしづくりの情報広場

2024年9吉日発行

発行責任者：猪野工務店

〒781-8008

高知市潮新町 1-14-9

<今月の話>

1. 今月の話題 — 浴衣を見直そう —
2. 重ね煮 — トマト入り豚汁 —
3. ほったらかし農園 — 油断大敵 瀕死のスイカを救え —
4. 整理収納の仕事 — 想の空間に一步步近づく —
5. 建築知識 — 44 年東南海地震と 45 年三河地震 —
6. 辛口コラム — 宿主を操るハリガネムシ —



今月の話題 — サステナブルファッション浴衣を見直そう —

夏祭りに秋祭り、浴衣に親しんだ方も多いかと思います。日本の伝統的な衣装である浴衣は、驚くほどサステナブルなことをご存知でしょうか。

浴衣がサステナブルな3つ理由

- ① 浴衣の染色には伝統的な藍染や草木染が使われます。これらの自然染料は、環境に優しく、安全な素材を使用しているため、現代の環境問題にも対応しています。化学染料とは異なり、環境への負荷が少ないため、持続可能なファッションの一環として注目されています。
- ② どの浴衣も1枚の長方形の布から作られ、長方形に戻すことができます。現代の大量生産の服とは異なり、裁断時に余分な部分が少ないので、生地が無駄がないことが特徴です。実際、江戸時代から続くこの技術は、まさにエコの先駆けとも言えるでしょう。
- ③ 浴衣がつなぎ直しや染め直しによって長期間使用できる点です。古くなった浴衣は、解いて新たなデザインに仕立て直すことができます。実際に、母から娘へと世代を超えて受け継がれる浴衣も珍しくありません。色あせた浴衣は再び染め直すことで、まるで新品のように蘇ります。一枚の浴衣が何世代にもわたって使用され、ファストファッションの対極にある持続可能な消費文化を体現しています。1枚の布に戻るということはリメイクもしやすく、パジャマやワンピース、他にも傘の生地やブックカバーなどの小物にすることもできるので、好きな柄の浴衣を長く楽しむことができます。



昔の人々は浴衣を大切にし、手入れをしながら長く愛用してきました。このような知恵は、現代にも通じる持続可能な生活のヒントを与えてくれます。私たちも、この伝統的な知恵を見習い、浴衣のように長く愛される持続可能なファッションを取り入れていきたいものですね。



重ね煮

まだまだ暑い9月。暑さに疲れた身体を整えてくれる一品です。お味噌とトマトの相性がよく食欲もわいてきます。

— トマト入り豚汁 —



1. 鍋に図のように材料を重ね、分量内の水をひたひたまで加えてフタをして中火にかける。
2. 沸騰したら弱火にし野菜がやわらかくなるまで煮る。

重ね煮アカデミー主宰
<https://megu-kasaneni.com/>

味噌	60g
豚肉	40g
人参	30g
玉ねぎ	60g
じゃがいも	100g
トマト	60g
ナス	80g

水 3カップ
しょうゆ 小さじ1
大葉 適量

☆トマトと味噌の相性の良さは予想以上。
☆しょうがを入れるとさらにさっぱり。
食欲もアップ。その場合は千切りで鍋の一番下に入れてください。

ほったらかし農園

— 油断大敵 瀕死のスイカを救え —

梅雨が明け、暑い日が続いた7月。スイカ好きの夫が「もう待てない」と言って市販のスイカを買ってきました。畑のスイカはなかなか大きくなりません。抜くのが追いつかない雑草を見て見ぬふりし、「無農薬、無化学肥料でやっているから遅いのかなあ」と、とりあえずカラス対策だけしていた私に衝撃の事実が訪れたのです…。

7月の中旬に草抜きをしました。すると…反省です。なんとスイカの周りにはあったのはスイカの葉ではなくツユクサでした。すべて抜いてみたらスイカの蔓は枯れていました。玉はその枯れた子蔓についていたので、願いをかけて熱心に水やりをしました。4日間朝晩の水やりをしても枯れたまま。諦めて小ぶりのスイカを収穫して切って見ると、なんとしっかり赤くなり育っていました～！味は少々薄いですが瑞々しい！嬉しい！やりました！

暑くても畑に立つ。本当に農家さんに感謝です。次はまた冬野菜の準備の時期です。暑くてもやる気が起きませんが、来たる？食糧難に向け日々努力します～。



— 想の空間に一步ずつ近づく —

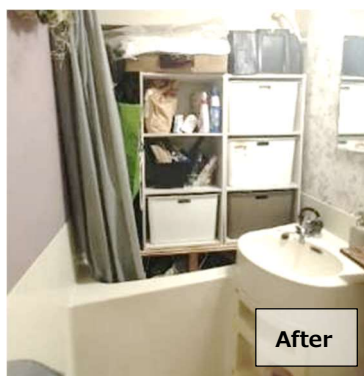
今月は片付けが進み、理想の空間に近づいた事例をご紹介します。1回目でご紹介したサロンの続編です。一般の住宅ではないですが、片付けの流れとしては同じなので参考にして下さいね。

整理

収納の 仕事



収納の棚の面と背面を入れ替え、背面に壁と同じ壁紙を貼りました。



物が減ったので、浴槽からはみ出していた目隠しカーテンは開け閉めがしやすくなり、浴槽の中に入るようになりました。必要以上の在庫も持たないように継続されているようです。(最後の片付け日から1か経過の状態)

STEP1 使用頻度からの仕分け

メインルームで行っていた事は以下の5つ。

- ①フラワーコーディネート
- ②アロマオイルワークショップ
- ③ハーバリウム教室
- ④シミ抜きサロン
- ⑤痩身エステサロン

使用頻度から④と⑤に絞ることにしました。

STEP2 配置を決め

頻繁に使うものを使いやすい所に置く
→頻度の高いものがゴールデンエリアに(立ったままで一番出し入れしやすい場所)

STEP3 使用頻度から量を決める

必要だと思っていたモノが半年に2回しか使わなかったということもあります。在庫量がぱっと見て分かるようにしておき、あまり使わない物の量を減らしていきます。

バスルームも同様に仕分けを行い、配置と量を決めて行きます。バスタブは収納として使っています。

- ①トイレ回りの掃除道具
- ②エステで使う消耗品や紙袋
- ③今は開催しない教室関連の物を収まる分だけにしました。

4日の訪問でここまで片づけました。まだキッチンが継続中です。

お客様をお迎えする空間は目標に近づいたとクライアントの方は達成感を感じていました。まだまだ改善の余地はありますが、変化が見えてくると、もっと改善したいとやる気が湧いてきます。



建築知識

44 年東南海地震と 45 年三河地震

敗戦間近い 1944 年 12 月 7 日 13 時 36 分の東南海地震は、南海トラフ沿いのプレート沈み込みに伴う M7.9 の大地震で震度 6～7。千人を超える死者が出て、紀伊半島から伊豆半島までを津波が襲いました。私は幼少時に、家の前で三輪車ごとひっくり返りました。次々にやってくる余震での倒壊を恐れて、道沿いの家々は皆一様に布団を家から持ち出し、路上で布団をかぶって夜を明かしました。余震で、近くの農家の納屋が倒れ、冴えわたった冬空に今では見ることが出来ない「天の川」がくっきり見えたことを覚えています。

その 37 日後、1 月 13 日午前 3 時過ぎ、プレート内活断層からの直下型地震、最大震度 7、死者 2 千人超の三河地震が起きます。この 2 大地震は戦争末期のため救済どころか報道もなく、あまり知られていません。

戦争末期で物資が乏しい時代。行政の支援がない中で、近隣の地元の人々や有志たちが食料や資材を集め、融通し合い、自主的な活動をしていたことを知っていくらか救われた気持ちになりました。

関東大震災以来、殆ど耐震に進歩は見られず、筋交いはなく貫きと呼ばれる壁構造、竹と荒縄で編んだ「木舞」に泥と藁を練って塗る土壁が普通で、柱は平らな川石の上に立てたので、倒壊被害が多かったのも頷けますが、そんな仕様の我が生家は倒れずその後も長く使われました。平屋は倒れにくいかな。



内閣府 三河地震報告書より 現安城市根崎町

辛口コラム

宿主を操るハリガネムシ

秋近い小学校の帰り道、通学路脇の水たまりに（昔の道は凸凹で無舗装）フラフラのカマキリがいて黒い 30 cm 以上の針金状の虫が尻から出る場面を時々見たものです。寄生虫ハリガネムシが水中に出るために宿主であるカマキリを操ってゾンビ化し水に飛び込ませます。彼らは水中で交尾産卵し、孵化した幼生はカゲロウなどの幼虫（水性昆虫）に食べられその体内で皮を被ったシストになって休眠します。

成虫となったカゲロウ類は陸に飛び出し、これを食べたカマキリやカマドウマ、コオロギなどの体内で奴らは成長します。繁殖時期になると宿主を操って水に飛び込ませます。水に飛び込もうとするカマキリやカマドウマの脳内にはハリガネムシが産生したらしいある種のタンパク質が発見されており、どうやらこれが水嫌いのカマキリなどにあらぬ行動をさせる元らしい。

世界のある地域ではこうして入水自殺する多数のカマドウマの飛び込みが多発する 3 カ月の間、当地のアマゴなど溪流魚の栄養源の 9 割を占めるそうで、自然環境への影響は大きいのです。寄生生物に操られるのは哺乳類も同じで、例えばハイエナの子供はトキソプラズマ原虫に寄生されると普通よりライオンに接近するようになり食われる率が高くなりますが、これはトキソプラズマがネコ科の動物体内で繁殖するためライオンに乗り換える為です。トキソプラズマは人にも寄生し、そうすると人は事業や恋愛でも冒険的な行動をとり易くなるそうです。



コオロギから出るハリガネムシ
ナショナルジオグラフィックス誌

